

令和6年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(共同制作支援事業)  
成果報告書／事後評価書

|            |                                                                              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 事業(公演)名    | 全国共同制作オペラ 歌劇「ラ・ボエーム」2024                                                     |
| 代表団体名      | 公益財団法人兵庫県芸術文化協会兵庫県立芸術文化センター                                                  |
| 劇場・音楽堂等の名称 | 東京芸術劇場、名取市文化会館、ロームシアター京都、兵庫県立芸術文化センター、熊本県立劇場、金沢歌劇座、ミューザ川崎シンフォニーホール           |
| 実演芸術団体等の名称 | 読売日本交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、九州交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交響楽団 |
| 内定額        | 72,352 (千円)                                                                  |

1. 基礎データ

・ 公演に関する数値目標

|                 |            |         |       |      |            |       |
|-----------------|------------|---------|-------|------|------------|-------|
| 入場者数計           | 9,737      | 入場者率(%) | 86.0% |      | 収益率(%)     | 20.7% |
| 会場名①            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| 東京芸術劇場          | コンサートホール   | 1,999   | 1,427 | 2    | 座席撤去、見切れ等  |       |
| 会場名②            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| 名取市文化会館         | 大ホール       | 1,327   | 993   | 1    | 座席撤去、見切れ等  |       |
| 会場名③            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| ロームシアター京都       | メインホール     | 2,005   | 1,592 | 1    | ピット使用、見切れ等 |       |
| 会場名④            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| 兵庫県立芸術文化センター    | 大ホール       | 2,001   | 1,908 | 1    | 見切れ等       |       |
| 会場名⑤            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| 熊本県立劇場          | 演劇ホール      | 1,172   | 1,034 | 1    | ピット使用等     |       |
| 会場名⑥            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| 金沢歌劇座           | ホール        | 1,919   | 1,542 | 1    | ピット使用等     |       |
| 会場名⑦            | 会場状況・施設形式等 | 会場の定員数  | 設定席数  | 公演回数 | 補足事項       |       |
| ミューザ川崎シンフォニーホール | ヴィンヤード形式   | 1,997   | 1,399 | 1    | 座席撤去、美術設置等 |       |

2. 助成対象活動（公演）の実績記録と自己評価

(1) 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 助成対象活動（公演）について、実施会場ごとに自己評価を記入してください。

| 会場名 |                 | 入場者数 |       | 入場者率   | 評価指標                    | 目標(値)                                          | 実績(値)                                | 団体の自己評価                                                                                                                                                                                 | 所見                                                                                                                                                                       | 備考 |
|-----|-----------------|------|-------|--------|-------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1   | 東京芸術劇場          | 目標値  | 2,482 | 87.0%  | 観客満足度                   | アンケートの5段階評価で上位2段階(「大変良かった」「良かった」と回答した人が85%以上   | 98%                                  | 左記の観客満足度98%のほか、入場者達成率125%、記事掲載約40件、初めてオペラを鑑賞した方も11%を超えた。チーム全体で素晴らしい舞台を作ることが出来た。また、芸劇公演の収録をNHKに働きかけ、BS&地上波双方で放送。異例のマエストロの字幕採用、共同制作館&プランナー名明記で映像に残せたことは、本事業の価値を広めることにも寄与した。               | 企画制作を推進したことに加え、NHK「クラシック音楽館」「プレミアムシアター」等の番組で当該劇場で収録された公演が全編放映され、本事業が広く可視化されたことは、共同制作オペラの成果の集大成と言えるだろう。<br>・有料入場者率が低いのは、各種メディアや関係者、招待者が多かったためと思われる。                       |    |
|     |                 | 実績値  | 3,109 | 93.7%  |                         |                                                |                                      |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 2   | 名取市文化会館         | 目標値  | 844   | 85.0%  | 観客満足度                   | アンケートの5段階評価で上位2段階(「大変良い」「良い」と回答した人が90%以上       | 88.3%<br>※評価無回答者(全体の9.1%)を除くと97.2%   | 目標値を非常に高く設定していたが、観客アンケート結果において、その目標値を実質的に大きく上回る結果となり、高い成果をあげることができた。このことは、事前広報において公演の水準と内容が適切に周知されたと共に、地域の一般合唱・児童合唱の起用によって観客の期待と気運の醸成にも成功していたことを示すと考える。                                 | 2015年9年ぶりの全国共同制作オペラへの参画で、劇場職員や地域の活動者が一丸となって取り組んだ成果が、券売や来場者の満足度の高さに現れている。評価指標にはなっていないが、初めてオペラを鑑賞したと回答した方は31.8%に上った。オペラに適した劇場が少ない地域において本公演が実現したことは、東北地方の観客にとっても貴重な機会であった。  |    |
|     |                 | 実績値  | 973   | 97.8%  |                         |                                                |                                      |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 3   | ロームシアター京都       | 目標値  | 1,432 | 89.9%  | 観客満足度                   | アンケートの5段階評価で上位2段階(「大変満足した」「満足した」と回答した人が85%以上   | 91.80%                               | 前年度に国際的なスタッフ・キャストによる小澤征爾音楽塾公演で同じ演目を取り上げていたにもかかわらず、今回の公演の観客アンケート結果において、目標としていた観客満足度を上回ることができたことは本事業の独自性と水準の高さを示す。アンケートにおいても、公演内容について高く評価する記入が多かった。                                       | 安定した制作力で学生を積極的に動員するなど、オペラ公演の観客層を広げた。京都という土地柄ゆえ旅費交通費の負担増にも直面していると思われるが、地域住民の支持を集め、関西の拠点劇場としての基盤を固めている。                                                                    |    |
|     |                 | 実績値  | 1,624 | 93.9%  |                         |                                                |                                      |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 4   | 兵庫県立芸術文化センター    | 目標値  | 1,722 | 90.3%  | 観客満足度                   | アンケートの5段階評価で(「大変満足した」「満足した」と回答した人が85%以上        | 93.13%                               | 例年、プロデュースオペラ公演を中心に高水準のオペラ事業を行っており、観客層は重なっていると想定される(同年7月実施の芸術監督プロデュースオペラを観たが58.8%、年間のオペラ鑑賞回数 最頻値は2〜3回で50%)。その中にあっても、目標とした観客満足度を大きく上回る成果をあげた。                                             | 幹事館として企画制作を推進した。長年オペラのプロデュース公演に取り組み、多くの地元愛好家や鑑賞機会にも恵まれる当該劇場においてなお、高い顧客満足度やチケットが完売したことは、本公演の注目度や劇場のプロデュース力の高さを示したと言える。                                                    |    |
|     |                 | 実績値  | 1,975 | 100.0% |                         |                                                |                                      |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 5   | 熊本県立劇場          | 目標値  | 920   | 89.0%  | 観客満足度                   | アンケートの5段階評価で上位2段階(「大変満足した」「満足した」と回答した人が90%以上   | 上位2段階が99.6%(79.5%が「大変満足」、20.1%が「満足」) | アンケートによる観客満足度が目標を大きく上回った。また、外部評価委員のレポートでは、「九州で唯一この演目が上演され、熊本県立劇場の存在感は大いに高まった」「学生席を設けられ、若い世代への啓発が図られたことがよかった」などと高く評価された。                                                                 | 全国共同制作オペラへの参画が4回目となる当該劇場は、回を重ねることで大規模公演の企画・制作ノウハウを獲得し、九州の拠点劇場の一つとして存在感を増している。九響との連携や、子どもや若者の来場を促す積極的な取り組みもあり、地域にとって意義深い公演になったと思われる。<br>・有料入場率が若干低いのは、子ども無料招待によるものと思われる。  |    |
|     |                 | 実績値  | 974   | 94.2%  | 外部評価委員(もしくはモニター)による定性評価 | 半数以上から肯定的な評価を得る                                | 視察した評価委員2名からいずれも高評価を得た。              |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 6   | 金沢歌劇座           | 目標値  | 1,079 | 70.0%  | 観客の満足度                  | アンケートの5段階評価で上位2段階以上が80%以上                      | 97.90%                               | 例年開催しているオペラ事業と客層が重なる中で前例のないチケット完売となり、高い期待が集まった。その観客の満足度が目標を大きく超えたことは、その期待に応える内容だったと言える。また、合唱のオーディションに目標を大きく超える応募が集まったことは、これまでのオペラ公演の実績に対する評価と今回の公演への期待の高さが示された。                         | 能登半島の自然災害の影響が懸念されたものの、当初の目標をいずれもクリアし、全ての参画館の中でも有料来場者率が最高値となった。また合唱団へのオーディション参加者が想定を大幅に上回った点も、本公演への注目度の高さが表れている。またここでの評価指標ではないが、初めてオペラを鑑賞したと回答した方が約24%に上ったことも、特筆される成果である。 |    |
|     |                 | 実績値  | 1,536 | 98.7%  | 合唱団オーディションの参加人数(児童合唱含む) | 参加者60人以上                                       | 90人(辞退者除く)                           |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |
| 7   | ミューザ川崎シンフォニーホール | 目標値  | 1,258 | 89.9%  | 観客の満足度                  | アンケートの5段階評価で上位2段階(「とてもよかった」「よかった」と回答した人が80%以上  | 99%                                  | 「非常に良かった」82%、「良かった」17%と、目標値を大きく超える結果を得た。コンサート・オペラ鑑賞者の創出については、12月ばらの騎士公演の鑑賞者を調査するのではなく、今後オペラ公演を聴きたいかという質問とし、さらに広範囲におけるオペラ観客層創出の成果を探った。結果として、もっとオペラを上演してほしいという回答が90%を占め、創出に大きく貢献することができた。 | 長年の東京交響楽団との提携関係を基盤に、ヴァンヤード式のコンサートホールで果敢にシアターオペラの上演に取り組んだことや、ホスピタリティシートといった当該劇場独自のサービスの導入、更には在住外国人との国際交流の試みなどから、全体として高い顧客満足度となった。                                         |    |
|     |                 | 実績値  | 1,302 | 92.8%  | コンサート・オペラ鑑賞者の創出         | アンケート回答者のうち、11月ボエーム公演、12月ばらの騎士公演両方を鑑賞した、が40%以上 | 90%(設問を一部変更)                         |                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                          |    |



3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

| 評価の観点                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・先導性があり、特色ある実演芸術の事業企画である。<br>・優れた芸術家、スタッフ等が才能、技能を発揮し、国際的水準の公演が期待できる。<br>・我が国の実演芸術をけん引する成果、国内外での評価の向上につながる。 |

(1) 助成対象活動(公演)全体に対する評価指標と目標(値)

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

| 評価指標                                             | 目標(値)                                                         | 実績(値)                                                                                                                                                                                                                | 団体の自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 所見                                                                                                                                                                                                                              | 対応・追加情報など |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| A.若手の芸術家たちを題材にしたオペラ『ラ・ボエーム』に、旬のアーティストを起用する       | A:オーディションを実施し、ソリストの50%以上をオーディション参加者から起用。また、20～30代の若手歌手の起用5名以上 | A:ソリスト13名のうち、海外3名、老人役(ベノワ)1名を除く全員9名(69.2%)を広くオーディションで抜擢。13名のうち、30代が9名。                                                                                                                                               | 「ボエーム」のようなアンサンブルオペラにおけるキャスティングは絶妙なバランスが求められるが、今回は指揮者・演出家による芸術的要求を大前提としつつ、バランスのとれたキャスティングを高い水準で実現することを目指した。                                                                                                                                                                                       | ◇下記「エピソードやグッドプラクティス事例」で詳述されている通り、本企画では非常に高度なレベルでの企画・制作が、全プロセスを通じて行われたことが伺われる。申請代表の兵庫県立芸術文化センターと、同じく幹事館を務めた東京芸術劇場が核となりながらも、7館それぞれが持ち味を発揮し、クリエイションの他に広報やツアーマネジメント、稽古場運営等、さまざまな形で共同制作に参画し、互いのノウハウを共有し向上させた点は、共同制作支援事業の成果として特筆に値する。 |           |
| B.コンサートホールとプロセニウムとの双方で実現可能なオペラを追求する              | B:通常実現できない、コンサートホールでのオペラを3公演実現する                              | B:コンサートホール(東京2・川崎1)で3公演実施                                                                                                                                                                                            | 近年の国内オペラ界では特に30代前後を中心に若手歌手の躍進が目覚ましく、実力のある若手を国民に広く紹介してその鑑賞機会を設けるだけでなく、将来に向けて充実を図っていくためにも彼らにハイレベルな出演機会を確保していくことが非常に重要である。また、所属団体や師弟関係に捕らわれない公募オーディションが可能性を拡大する。                                                                                                                                    | ◇作品の成果としては、出演者を公募オーディションとして出演の機会を広く提供し、若手を積極的に起用して成長を後押しし、歌手もまた関係者の期待に応えて見事なパフォーマンスを見せた。                                                                                                                                        |           |
| C.批評家等、新聞掲載レビュー                                  | C:公演評等での高評価8割以上                                               | C:十分な高評価を得た(以下、掲載紙一部提出)<br>読売新聞・夕刊:【評】(文:松平あかね)／河北新報・朝刊:(文:佐藤素子)／関西音楽新聞:【オペラ評】(文:横原千史)／オン・ステージ:【オペラ評】(文:池田卓夫)／音楽の友2024年12月:(文:岸純信/中村孝義)／モーストリー・クラシック2025年2月号:コンサート&オペラベスト10 第2位 井上道義の一連の指揮活動(演奏会とオペラ「ラ・ボエーム」)の集票の台算) | ソリストに起用した全13名のうち、オーディション採用9名のほか、3名は海外の気鋭若手(いずれも国内歌手と同世代の30代)を招聘、またカバー、アンダースタディ(20代を1名)を採用するなど、井上道義、森山開次両氏の優れた見識の下で、門戸を広く、若く将来性のある人材を登用したことは、今後のオペラ界に大きな布石となった。                                                                                                                                   | ◇特に、リハーサルにおいて出演者や演出家等、関係者間で活発な意見交換がなされたという報告に注目したい。厳しいオーディションを経たことにより出演者の意欲や主体性が引き出されたものと思われるが、立場に関わらず水平的な関係性が築かれることは、これからの創造現場でますます重要になると思われるからである。                                                                            |           |
| D.積極的な広報戦略を行い、多方面の媒体で取り上げてもらう<br>新聞・雑誌・Web等での掲載数 | D:50件以上                                                       | D:メディア掲載総数:72件(Web掲載:48件、雑誌掲載:18件、テレビ・ラジオ:6件)(一覧表及び掲載紙抜粋提出)                                                                                                                                                          | 期間中、病氣療養等によるキャスト変更が生じたが、カバーキャストを配置して必要な稽古を行ったほか、万全の体制で代役出演を実現して好評を得た。                                                                                                                                                                                                                            | ◇森山開次の演出では、通常「ラ・ボエーム」演出には登場しないダンサー4名を起用していた。賛否はあったが、今後のオペラの新演出の可能性を投げかけた。                                                                                                                                                       |           |
| E.どれだけ多くの出演者・スタッフ等が本事業に関わったか(7地域における出演者、スタッフの数)  | E:合計800人以上                                                    | E:900人以上                                                                                                                                                                                                             | コンサートホール形式の会場とプロセニウム形式の会場の双方を前提とすることは、創造プロセスにおいて大きな制約になる一方、特に地方都市における大規模舞台芸術作品の上演機会を多数確保していく上では重要なメルクマールの一つとなる。東京芸術劇場を起点、ミューザ川崎を到達点とした今回のツアーが全国のプロセニウム形式会場を巡演したことで、8公演が実現できた。                                                                                                                    | ◇一方で、体調不良等で歌手の降板やキャストの入れ替えが度々生じており、意見交換の際に状況について確認したが、急遽代役を務めた歌手の好演に支えられ、公演の水準に影響が生じることはなかった。                                                                                                                                   |           |
|                                                  |                                                               |                                                                                                                                                                                                                      | 今回の取り組みが、上記のような先導性と独創性を備えた事業としてメディアや評論を通じて適切に、かつ広く周知されることによって、オペラ上演がごく一部の国民の嗜好に留まらず、広く生活に根差した文化芸術活動として認知・認識される大前提となる。今回の事業では、海外メディアへの情報掲載を含めて7館の持つ広報手段によって全国の国民への告知が効果的に行われた上、引退する井上道義氏に対する注目と重なって広く衆目を集め、丁寧に読み解こうとするメディア露出に恵まれた。「音楽の友」「ぶらあぼ」の表紙を飾るなど、積極的な広報展開も奏功した。事業趣旨が国民に浸透する上で大きく寄与したと考えられる。 | ◇コンサート形式であれプロセニウム形式であれ、本格的なオペラ鑑賞の機会の少ない地方都市も含めて全8回の公演が実現したことは、共同制作ならではの成果と言える。                                                                                                                                                  |           |
|                                                  |                                                               |                                                                                                                                                                                                                      | 共同制作事業は本来的に複雑で大規模なものになりがちであるが、今回は、出演者数と転換規模の大きな「ラ・ボエーム」という演目において、東北から九州まで全7館が参加し、共通の出演者・スタッフのほか、各地のオーケストラ、合唱団等をそれぞれ起用するという、前例のない規模の事業となった。出演者・スタッフのノウハウと共に、高度な制作能力が要求される事業が成功裏に完遂できたことは、国内オペラ史においても特筆すべき快挙となった。                                                                                  | ◇井上道義氏の引退公演という話題性もあり数多くのメディアで取り上げられ、インパクトのある露出もあり公演のブランディングに成功した点と、これまでの「全国共同制作オペラ」の実績が、全公演完売という快挙につながったと思われる。また批評も概ね高評価であり、舞台成果としても非常に充実していたことが見て取れた。                                                                          |           |
|                                                  |                                                               |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ◇「国民に浸透する」ためには、オペラという総合芸術の鑑賞機会が特に地方都市で増えることが望ましく、今回も宮城県名取市や熊本県で実施できたことの意義は大きかった。関係者の努力に敬意を表する。                                                                                                                                  |           |
|                                                  |                                                               |                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ◇大規模な演目において、共通の出演者・舞台スタッフの他に、各公演地のオーケストラや合唱団、舞台・制作スタッフ計978名が関与するという企画は、スケジュール調整やリハーサル運営含め、多大なマネジメント労力を要する。本企画は全ての関係者がプロフェッショナルな働きをしたことで実現し、その結果、各地の観客にも大いに喜ばれる公演になったものと思われる。                                                    |           |

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

本プロジェクトの特徴を集約すれば、①近年の音楽界・舞踊界においてトップクラスのキャリアを誇りながら、なおかつ社会に向けて果敢に芸術的挑戦を続けるアーティストを指揮者・演出家として迎え、②東北から九州まで、異なる条件の下でそれぞれ社会と芸術活動の関わりを媒介しノウハウと実績を積み重ねてきた7つの劇場・音楽堂が共同制作することにより、③国際的な水準のオペラプロダクションで8公演を実現したことにある。

高度な要求を実現するため、まず体制づくりから周到に整備した。全7館の協力により、各館がそれぞれのスキル、ノウハウとマンパワーを持ち寄り、得意分野を担当しつつ、相互に補いあいながら、制作面ではオペラ制作経験の豊富な兵庫県立芸術文化センターと東京芸術劇場が幹事館を務め、広報(川崎、名取、熊本)や旅行手配(京都、金沢)を含む制作業務の実態に即してスタッフを配置すると共に、経験豊富で且つ井上道義、森山開次両氏との協働の経験もある舞台監督、プロダクションマネジャーが専門性の高いテクニカルイシューに対応することで、指揮者と演出家の創造性を十分に発揮できる体制を整えた。何より、自身の引退を前に集中力が一層高まっている指揮者・井上道義と、その信頼を背負い、前回(2018年全国共同制作オペラ)の「ドン・ジョヴァンニ」での経験と40代に入って充実した活動実績から卓越したセンスと意欲を示す森山開次が協働し、「火の鳥」等でのコラボレーションの経験を経て、2回目のオペラ・プロダクションに取り組んだことで、双方の創作意欲が最も効果的なタイミングで発揮されることになった。

創作過程においては、病床から戻ったばかりの井上を森山が気遣いながらも、演出や美術面にも容赦なく(時には本質的な問題意識に基づいて、また時には瞬間的な思い付きで)要求を突きつける井上を、森山は緻密な考察と周到な準備で受け止め、より高次元の解決案を実現した奇跡のような瞬間が数知れず発生した。一例としてダンサーの扱いがある。本来の「ラ・ボエーム」にはバレエやダンスを上演する場面はないため、森山は(ダンサーとしての視点を「ドン・ジョヴァンニ」では積極的に取り入れたの(対して)ダンサーとしての視点を抑制して演出に取り組む覚悟だったが、打ち合わせを重ねる中でダンサー的な要素を加えることを井上が示唆し、森山がそれにこたえていく中で、音楽や演劇的な内容と相関するダンサーの使い方が見いだされた。この他の点においても舞踊家としての森山のアプローチが直接的、間接的に作品に高い独創性をもたらした。

出演者の選定においても同様で、最終的には公募オーディションに間口を広げ、さらにはインターネット受付や動画審査によって幅広く募集することで常に、より高次の可能性を追求した。従前の情報や発想に基づく予見から自由に発想することに挑戦することの表れだった。井上も森山も、第一次のビデオ審査や第二次の試聴会、海外歌手の資料をすべて自分自身でチェックした。また200件に及ぶ国内トップクラスの歌手たちの応募が集まったことは、応募者たちの意欲の高さを示した。期間中、病氣療養等によるキャスト変更が何度か発生したが、交代内容についても常に最高の選択を求めた。上記のような人選によって、例えばリハーサルにおいて、出演者と演出家、出演者同士、出演者と指揮者との間の意見交換が他のプロダクションでは見られないほど緊密にみられ、直近で英国ロイヤルオペラに同役でデビューしたばかりのルザン・マンタジャンを始め、海外から招聘して参加した歌手たちからも非常に感銘を受けたとの感想があった。海外キャストを起用し、彼らが帰国後も、本事業について紹介することで、わが国のオペラの国際プレゼンズに貢献すると考えられる。合唱団に関しては、地域によってプロ集団の公演と一般との混成の公演があったが、各地それぞれそれまでのノウハウと、新たな工夫を凝らして編成を行った。上記のスタッフ体制と出演者との相互作用によっていずれもモチベーションが高く、指揮者・演出家の要求に対して積極的に応える姿勢は、上演水準の向上につながった。(資料:別添キャスト・スタッフの声)

プロダクションデザインの面では、本来「ラ・ボエーム」は、3場ないし4場の設営が求められる作品だが、能舞台に着想を得た一杯道具を基本にしてすべての場面を展開し、かつ抽象的ではなく原作をリスペクトした伝統的な具象デザインを、キャンバスを窓枠に見立てる趣向や、衣裳との相乗効果で雪景色を現出させるなど、ファンタジー溢れる着想で両立させた。同じコンサートホール形式の会場でも、東京芸術劇場とミューザ川崎シンフォニーホールはステージの大きさと構造が異なっており、演者の動き(ステージング)と舞台美術の造作を大幅に変更する必要があった。最終的に、ステージ面を追加することで舞台を拡張した上で、第2幕においてハンダ隊が客席エリア内を横断する演出を施すことで、物理的な要件を満たすだけでなく、芸術的にも効果の高い解決方法を実現した。演奏会形式でもない、コンサートホールでの舞台上演という形式は特筆されるべき特徴と考える。

プロセニウム形式の会場でも、名取や金沢など、オーケストラビットが十分整備されていない場合には、物理条件に応じて座席を撤去したり床面を追加したりした上で、演出・美術プランとの整合性を図りながら、創意工夫を凝らして演奏スペースを設営した。

創造性・企画性が一過性のものに終わらないためには、周到な制作準備・公演運営と共に、メディア等を通じて広く国民の認知と理解を得ることも肝要だが、今回は、4月の記者発表から各メディアの注目が集まっただけでなく、7都市を回る中で公演の評判が記事露出やSNS等を通じて拡散し、卓越した創造性・企画性と公演水準の高さが広く認知されることで、オペラ文化そのものの総合的な拡散に寄与することができた。

地方館においては共同制作のスキームを生かし全国範囲の広報展開をできたことは、館の認知度を高めることができたことととも、実務者の経験値の蓄積につながった。

以下、特に各館からのコメントを付記する。

【名取】今回のラ・ボエームに加えて、地元合唱団にも参加した仙台オペラ協会の自主公演も同月に仙台市内で開催された他、仙台近郊の他都市でも、地元の歴史をオペラ化した公演があるなど、県内でオペラ文化が盛り上がった1年であった。地元紙に名取市での全国共同制作オペラ開催を称賛する投稿があり、影響が大きいことが伺えた(資料別添)。仙台フィルの定期演奏会会場のロビーで、チケットの出張販売を行うなど、良い協力体制のもと完売に向けて取り組むことができた。地元で公共施設の建築を学んでいる仙台高等専門学校建築デザインコースから仕込み中の舞台を見学したいという申し出があり、対応した。制作統括が解説を行い、公共ホールや劇場に関わる若者に実体験も含めた貴重な学びの場を提供できた。普段投げ込みを行っても中々掲載に達することができない事業が多い中、公演前後で地元紙に大きく取り上げてもらうことで、「名取市文化会館」の事業の取り組みに注目してもらう良い機会となった。地方オーケストラである仙台フィルハーモニー管弦楽団も、プロの演奏家やプロダクションでオペラを演奏する機会は少ないため、良い実績となった。名取市文化会館を運営する公益財団法人名取市文化振興財団は職員8名ながら総力戦で事業に臨んだ。上記チケットの出張販売や各都市公演の助っ人など、全員が当該事業に主体的に関わり、自分たちの力で制作する自覚とスキルを向上することができた。他館と連携することで、業務の進め方や細かな連絡調整、他館が行っている事例などに触れ、自館の業務に取り入れたい手法などを見聞きできたことは、劇場としての質向上に大変有意義であった。

【京都】アンケート回答者率が13%(回答数218名)と高く、また、満足・やや満足が90%と、来場者から非常に高い評価をいただいた。具体的には、「規模の大きさ、キャストのレベルの高さ、舞台の創造性など大変おもしろく拝見させていただきました。京都のオーケストラ、井上さんの指揮もよかったです。」との声をお願いいただいた。スケジュール、広報、旅行行程、出演者との関係性、お客様への対応方法などプロデュースオペラに関わる全ての事項において、各館が意見を出し知識を共有することで、より効果的でスムーズに進めていくことができた。また各館の事情によりできないこと、不足している部分をお互いに補い合い、高い水準の公演を実現することができた。ソリストとして地域のアーティスト3名が出演したため、地域の観客に向けた広報につなげることができた。京都ではオペラ公演の上演機会はあるが、自主制作を行う機会はしづなかつた。今回の事業を通して、単館ではなしえない規模の公演制作を担う機会となり、またノウハウ共有など学びが多くあった。

【川崎】記者発表に始まり、特設サイトの開設、SNSを積極的に活用するなどの広報戦略が功を奏し、情報公開直後より大きな話題となり、目標値を大きく超えるメディア掲載が実現し、多くの高評価を得ることができた。川崎公演では、ホスピタリティシートを設定のうえ販売(限定30席)した。ホスピタリティシートの購入者は公演前に舞台セット上で記念撮影ができるほか、ミューザに隣接するメトロポリタンホールにてランチビュッフェを楽しむことができ、公演の合間の休憩と終演後は優待レーンにて待つことなくドリンクを飲むことができるなど、公演前後の時間も楽しんでもらえる企画とした。参加者からは、多くの好評価が寄せられた。



評価項目②:地域性

| 評価の観点                                                       |
|-------------------------------------------------------------|
| ・劇場・音楽堂等が単独では事業を実現しにくいような地域においても創造性の高い公演の鑑賞機会の提供を実現する計画である。 |

- (1) 助成対象活動(公演)全体に対する評価指標と目標(値)
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

| 評価指標                                             | 目標(値)                                     | 実績(値)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 団体の自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 所見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 対応・追加情報など |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| A:地元の芸術団体と連携することで、音楽面での充実と地域文化に根差した活動の活性化を図る     | A:地元オーケストラと地元合唱団の起用                       | A:<br>管弦楽／読売日本交響楽団〔東京〕、仙台フィルハーモニー管弦楽団〔名取〕、京都市交響楽団〔京都〕、兵庫芸術文化センター管弦楽団〔兵庫〕、九州交響楽団〔熊本〕、オーケストラ・アンサンブル金沢〔金沢〕、東京交響楽団〔川崎〕<br>合唱／ザ・オペラ・クワイア、世田谷ジュニア合唱団〔東京、川崎〕、仙台オペラ協会ボエーム合唱団、NHK仙台少年少女合唱隊、宮城ボエーム児童合唱団〔名取〕、きょうと十ひょうごプロデュースオペラ合唱団〔京都、兵庫〕、京都市少年合唱団〔京都〕、三田少年少女合唱団〔兵庫〕、ラスカーラ・オペラ合唱団、NHK熊本児童合唱団〔熊本〕、金沢オペラ合唱団、金沢オペラ児童合唱団〔金沢*オーディションで編成〕 | 病床から復帰した指揮者によって1か月半(稽古期間を含めると2か月半以上)にわたって連続して公演を続ける今回のプロジェクトにおいて、できるだけ高い演奏水準を実現し、指揮者や出演者の身体的精神的な負担を軽減するには、オーケストラや合唱団はできるだけ変えないことが第一だが、この助成趣旨に沿って、7会場でそれぞれ各地域を代表するオーケストラを起用することとなった。その分、スケジューリングにおいては負担軽減とベストパフォーマンスの実現のために細心の注意と周到な準備をすることとなった。指揮者の引退公演の一環であることから、できるだけ各地のオーケストラと共演したいという意向があった。合唱団・児童合唱の編成においても、原則としては各地の人材起用を尊重しながら、地域的に隣接する東京と川崎、京都と兵庫については共通化することで、地域性と負担軽減を両立させた。いずれの場合も、各主催館が地元のオーケストラや合唱団・児童合唱関係者との関係づくりに大いに寄与することとなり、今回の公演に留まらず、日常的・将来的な芸術活動につながる効果を生んだ。地域 のオーケストラや合唱団を起用することで地元メディアにとっても話題性を見出しやすく、実際の取材機会も設定しやすいメリットがある。今回は、事前に設定された現地での稽古の取材をセッティングするなど、7館による情報共有と制作との連携によって、各地とリンクした効果的な広報を展開することができた。観客としての地域人材の創出という面では、京都での試みは高い効果が認められる。年間を通じて学生による文化活動の存在感や当事者意識が高く、鑑賞機会を積極的に活用してもらった契機にすることができた。 | ◇本公演において、各地のプロフェッショナル・オーケストラとオペラ合唱団・児童合唱団が共演したことは、地域の音楽活動の活性化や演奏レベルの向上、劇場との関係性強化につながるのとは報告の通りであると思われる。近接する地域間で効率的に協働したり、アマチュアの多い合唱団には他地域の出演者が賛助的に加わるなど地域を超えた交流が行われた点も、全国的な共同制作のスキームならではの成果である。<br><br>◇地元出演団体等の評価からも、本公演は出演者にとって得がたい経験であったことが伺え、合唱団員の舞台芸術への関心や参加意欲の高まりも、共同制作オペラの地域貢献と言える。<br><br>◇首都圏からの発信だけでなく、地元出演者をフックとして各地域の媒体で取り上げられ、質量ともに目標を大きく上回る発信がなされた点も、公演の話題性だけでなく各参画館の制作努力の表れであろう。<br><br>◇公演の経済効果や賑わいの創出は地方都市においてはとりわけ重要であり、名取市文化会館の評価指標や結果は注目に値する。<br><br>◇観客創造の観点では、ロームシアター京都の取り組みは、人口の1割が学生である京都市の人口構成や芸術系大学の多さを背景にしており、当初目標の2倍の券売となったことは若年層へのアプローチとして大いに評価されるべきである。<br><br>◇下記「エピソードやグッドプラクティス事例」で詳述されている通り、能登半島での自然災害を受けて10月の金沢公演への影響が懸念されたが、他公演地で寄付が募られたり、出演歌手が復興支援に協力するなど、本事業を通じて被災地支援が行われた点は意義深い。 |           |
| B:地元出演団体等の評価                                     | B:地元出演者・指導者・スタッフから「また参加したい」等参加満足度の高い評価を得る | B:「またオペラをやりたい」(中学生)、「子どもたちにとっては…得がたい経験」(指導者)、「貴重な経験」(合唱)との声から満足度が高い公演だったことが伺える(資料:合唱団感想)                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |
| C:【名取・京都・兵庫・金沢】地元メディア(新聞、雑誌、ウェブ、ラジオ等)による掲載件数・露出等 | C:名取3件、京都5件、兵庫3件、金沢5件以上、公演評価の場合は概ね高評価を得る  | C:名取11件、京都10件、兵庫8件(会員DM5万件含む)、金沢7件掲載 公演評は高評価を得た(資料:評価項目①のCの資料参照)                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |
| D:【名取】地域振興への貢献度(名取公演での来場者アンケート)                  | D:「公演前後に外食をする」の回答が4割以上                    | D:5割以上(51.4%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |
| E:【京都】京都近隣の芸術大学や高校との連携                           | E:京都公演での学生のチケット購入50席以上                    | E:98枚 ユース(U-25)・U-18チケット販売数合計                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |           |

- (2) 「地域性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

各主催館の置かれた状況は様々だが、それぞれの地域において芸術活動(鑑賞機会や体験・参画を含めて)をどのように提供していくべきかを平素から積極的に試みている点は共通しており、それぞれの目的意識を持って共同制作への参加を決断することとなった。大都市圏にある東京芸術劇場やミューザ川崎シンフォニーホールでは、オペラに対応している近隣の劇場施設とは異なるアプローチでコンサートホールでのオペラ上演の可能性に挑戦し、対象とする顧客ニーズを喚起する一方、地域に密着して継続的に芸術活動を育んできた名取市文化会館、熊本県立劇場、金沢歌劇座では、年間事業の中でオペラ公演を制作・開催する意義を打ち立て、さらに将来への布石としていくことを目指した取り組みとなった。

合唱団の編成は各地の条件がそれぞれ顕著に反映される部分となる。オペラを単に鑑賞するだけでなく、その中で出演者として参加することは強烈な芸術体験となることが期待されるため、特に、参加体験する機会の少ない地域(名取、熊本、金沢)においてはアマチュアによって合唱団を編成することになった。既存団体が母体となる場合には、平素から地域で活動している団体の励みにもつながり、金沢のように全て公募する場合には、今回のプロジェクトが社会に広く認知される機会にもなる。いずれの場合にも、オペラ文化をより身近に感じる環境づくりにもつながることが期待される。熊本のように長期的な関係づくりが奏功している地域もあれば、名取では、今回を機に地域のオペラ合唱団体との協力関係を深める機会にもなった。これらの地域では、複数回にわたって指導者を派遣し、要求される演奏水準をどのようにクリアするかに工夫を凝らすこととなった。一方、首都圏や関西は、音楽大学等が集中し、専門的な人材が集積されている地域でもあるため、演奏水準の向上と共に、それらの人材が活躍する機会を提供することを念頭に置いて、フリーのプロ歌手による合唱を編成することになった。彼らにとって貴重な演奏機会になったばかりでなく、一部はコアメンバーとして地方の一般合唱に合流する形をとることによって、地域の合唱メンバーに大きな刺激と人的な交流機会を提供することにもつながった。

児童合唱は、特に各団体の指導者によって交流範囲が定まってしまう傾向があるため、今回のようなプロジェクトは各団体とも貴重な機会として積極的に取り組んでくれた。京都と兵庫(京都は京都市少年合唱団、兵庫は三田市少年少女合唱団)は、事前の稽古を一緒に行ったため、児童合唱同士で横のつながりができ、両団体とも団員同士、指導者同士で熱烈な交流を行った。

オーケストラとの協働に関しても、井上氏が引退を前に過去に共演したオーケストラとの最後の共演機会になることを念頭に置くと同時に、各地域の特色が強く反映されることになった。近年、国内の各オーケストラは各地域のクラシック音楽文化を醸成・先導する役割を自覚的に担い、通常の演奏会や教育普及活動等と並んで、オペラ演奏を含む多彩な活動に積極的に取り組む傾向が高まっているが、実際に演奏に参加する機会は、一部の楽団を除いて頻繁にあるわけではない。今回のプロジェクトは、井上氏との共演であると同時に、オペラ演奏という意味でも各オーケストラにとっても有意義な機会となった。

オーケストラのスケジュール調整に際しては、7都市での連続開催ということで詳細日程の複雑な調整が必要だったが、副指揮者によるオーケストラリハーサルの分担など、早期に調整したことで合理的なスケジューリングが実現した。課題の一つとしてオーケストラパート譜の手配があったが、オーケストラ7団体が連携し、特に各団体のライブラリ同士の緊密な協力によって、スムーズな運営が実現した。さらに、井上氏の提案により、劇場形式の会場においても、オーケストラピットを深く沈めてしまわずに、いわば舞台とオーケストラが一体化しているように浅く(又は客席床面と同一面で)設定したため、それに伴ってオーケストラ内の配置や音量バランスなどの点で工夫を凝らし、リハーサル進行などの点でも臨機応変の対応が求められたが、どのオーケストラも意欲的に解決に協力し、プロダクション関係者全体のスキルと経験値のアップにつながった。

共同制作のメリットの一つは経済的な効率化にあり、公演数に関わらず発生するいわゆる「固定費」を複数の制作館が分担することで、それぞれの経費負担を軽減することが期待される。今回のプロジェクトにおいても基本となる大道具・小道具・衣裳・映像等にかかる経費や、基本的な稽古に関する経費を分担することで各制作館の負担軽減につながったが、これは単館ではオペラ制作が叶わなかった地域に公演を実現するだけでなく、実現された公演の水準を上げる効果ももたらす。

今回は首都圏や関西圏を含みながら、北は宮城県名取市や石川県金沢市から南は熊本市まで、互いに離れている7都市で開催することによって、地方にまでオペラ公演の鑑賞機会・参加機会を創出することができたが、遠隔地同士を結ぶツアーは多数の出演者・スタッフの長距離移動や長期の宿泊、会場ごとの仕様の違いによる舞台美術や演出の手直しによって固定費の比率が下がるため、共同制作による分担メリットが出ていない面がある。今回は、経済的な分担メリットだけでなく、例えば舞台備品や機材等を相互貸与したり(技術的なノウハウの共有やスタッフ同士の人的交流にもつながる)、合唱メンバーが応援したり(名取公演に金沢の一般合唱メンバーが賛助出演した)、稽古場施設を手配したり(都内の稽古場が確保できない場合に、川崎市の協力を得た)など、内容面での分担メリットを駆使することで、総合的に共同制作のメリットを創出し、各地で創造性の高い公演機会を提供することに成功した。

2024年1月1日に発生した能登半島地震、及び同年9月に発生した奥能登豪雨災害は、石川県下を中心に多大な影響を及ぼし、本プロジェクトについても金沢公演及びプロジェクト全体への影響が懸念された。各館では地震発生後、義援金の募金が行われた。また、10月に金沢で開催された支援コンサートに、本プロジェクトで招聘したイローナ・レヴォルスカヤがゲスト出演し、復興支援に寄与すると共に、本プロジェクトの告知を行い、集客につなげた。

今回のプロジェクトが単発的な機会に留まることなく、これに様々な形で関与した人材が、各地域においてこの先の芸術活動の担い手になる点で、かけがえのない貴重なプロジェクトとなった。

以下、特に各館からのコメントを付記する。

【名取】地元オーケストラの定期演奏会へ出向き、チケットの出張販売を行う等、オーケストラの固定ファンをオペラへ引き込む工夫を行い券売に繋げることができたのは大きな成果である。地元合唱団の協力を得て関連公演を実施したことで、地元の芸術団体と深く繋がることで、今後の連携を図る事業展開が可能となった。過半数が公演前後に外食をすることで、名取の観光産業の活性化にも繋がる喜ばしい結果となった。地元合唱団は仙台オペラ協会を中心にメンバーを募ったが、他にも個人単位での参加もあり、新たな人材を発掘することができた。会館すぐそばの、ハンバーグレストランは公演当日、開店から閉店まで一度も来客が途切れなかったとのことで、店のSNSでもオペラ開催に際してたくさんのお客様があったことが公演チラシと共に紹介され、地元飲食店と相互に良い影響がもたらされた。地元合唱団に個人で参加した学生(オペラ初参加)が、オペラに魅了され、その後自発的に県外(関西圏)のオペラ公演の合唱団に応募し、参加していた。オペラの担い手を増やすことができた嬉しい事例であった。

【京都】地域のオーケストラ、合唱団、児童合唱を起用しただけでなく、合唱稽古を兵庫公演の出演団体と合同で行ったことにより、双方にとって交流の場となり、「関西地域」として充実した活動を行うことができた。京都市内の芸術大学や音楽専攻のある大学・高校へチラシを送るなどの広報したことにより、若年層向けチケットの売れ行きが予想販売枚数をはるかに上回る数となった。出演した京都市少年合唱団からは「全国規模のオペラに出演させていただき、プロの演出・歌手のみならずと共演できたことは、子どもたちにとって素晴らしい経験となった」という意見をいただいた。指揮の井上道義氏が、京都市交響楽団第9代常任指揮者(1990～1997年度)であったことから、地域の注目度は高く、券売に大きく結びついた。なお、本公演時の写真を掲載した氏の引退記事は、地元紙にて大きく取り上げられた。

【熊本】合唱に地元団体のラスカーラ・オペラ合唱団とNHK熊本児童合唱団に出演を依頼。NHK熊本児童合唱団からは、「とても貴重な経験」、「最高の思い出になりました」といった声があった。また熊本公演終了後に金沢公演を鑑賞した出演者もあり、活動の活性化を図ることができた。管弦楽は九州交響楽団が出演。全国共同制作オペラへの出演は4回目となり、今回の出演をきっかけに、公演終了後には熊本県立劇場と九州交響楽団が包括連携協定を結び、県民に上質な音楽を継続して届けていく基盤を作った。

【金沢】地元新聞社とタイアップすることによって、きめの細かい情報発信を行うことができた。地元合唱団を特定の団体に依頼するのではなく、オーディションを行うことによってオペラにおける合唱団の周知及びレベルの底上げを図ることができた。

【川崎】川崎公演では、ミューザ川崎シンフォニーホールを本拠地とする東京交響楽団が管弦楽を担当することで、限られた練習期間の中でも非常に高い演奏クオリティを実現することができた。合唱団、児童合唱団については東京芸術劇場と合同編成とし、二つの劇場が連携して制作にあたることで、より熟練度の高い合唱を実現することができた。千種楽公演ということもあり、事前の注目度が高く、ミューザ川崎シンフォニーホールと川崎市フランチアイズオーケストラである東京交響楽団の繋がりを広くアピールする機会となった。



評価項目③:多様性・アクセシビリティ

| 評価の観点                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・人々の実演芸術に対する関心、参加への意欲を引き出し高めるような取り組み、工夫がなされている。<br>・障害の有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、幅広い人々が参加できるような配慮がなされている。 |

(1) 助成対象活動(公演)全体に対する評価指標と目標(値)

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

| 評価指標                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 目標(値)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 実績(値)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 団体の自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 所見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 対応・追加情報など |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| A:【東京・名取・京都・熊本・金沢・川崎】青少年の鑑賞会会の拡大(子ども招待・割引制度利用者数)<br><br>B:オペラに対する関心度の向上<br>1)アンケート<br>2)【東京】学生モニター<br>3)【名取】関連公演の参加者数(名取オペラレクチャーコンサート)<br>4)【川崎】多国籍の人々を対象にした交流イベント参加数<br><br>C:障がいがある方の来場を促進するための情報保障<br><br>D:【熊本】障がいがある方の来場を促進する(障がい者等割引制度の利用者数)<br><br>E:特定公演にて、高齢者や障害がある方のサポートスキルに特化したダイバーシティスタッフをレセプションistとして配置し、幅広い人々が参加しやすい環境をつくる<br><br>F:外国人の来場を促進するための情報保障 | A:子ども招待制度および青少年チケット販売数250人以上 ※子ども招待実施は熊本公演<br><br>B:1) 来場者アンケートで初めてオペラを観たという方が5%以上<br>2) 学生モニターによる調査に10名以上参加<br>3) 有料座席数の6割の来場<br>4) 参加者30名程度<br><br>C:1) 視認性の高い日本語字幕の投影<br>2) プログラムのあらすじ・解説を特設サイトや各地の劇場のHPに掲載<br>3) 希望者には点字プログラムのご用意、ヒアリンググループの提供をする<br><br>D:熊本公演において、障がい者等割引制度の利用者数20人以上<br><br>E:終演後の公演日報により、サポート実績を各地と共有し、各地スタッフのスキルアップに繋げる<br><br>F:1) 英語字幕の投影<br>2) ウェブサイトにて公演情報を多言語で閲覧できる、京都公演においては、英語チケット販売ページからの購入件数20人以上<br>3) プログラムの内容を英語で閲覧できるようにする | A:396枚(東京 高校生以下28枚・名取U-30 30枚・京都 25歳以下・18歳以下 計98枚・熊本U-25 68枚、子ども招待 57枚・金沢 大学生以下73枚・川崎 U-25 42枚)。<br>B:1) 東京11.7%、名取31.8% 兵庫4.9% 金沢23.6%(資料:2. 各館アンケート)<br>2) 10名参加<br>3) 2割3分(有料座席数446席のうち102名)<br>4) 50名参加<br>C:1) 日本語字幕 舞台正面上部に配置。<br>2) 読み上げ機能可能な特設サイトに、メッセージやあらすじを掲載。各劇場サイトから特設サイトへ閲覧できるようにした。<br>3) 川崎は点字プログラムの態勢を整えていたが希望者なし。東京、京都、兵庫、熊本は、ヒアリンググループを稼働。川崎はFM補聴システムを提供。<br>D:24人利用<br>E:各地の開催情報共有を行った。東京、兵庫、川崎においてはサポートスキルを持つスタッフを配置。また各都市においても車椅子利用者等が利用しやすい環境を整えた。<br>F:<br>1) 英語字幕を舞台正面上部に配置<br>2) 特設サイトは英語ページを作成。各劇場サイトは多言語対応あり。<br>京都:英語販売ページからの購入はなかったが、外国人来場者は複数見受けられた。当日の掲示物、アナウンスは日・英で案内。<br>3) プログラムのキャスト・スタッフは日・英表記。プログラムに特設サイトQRコードを貼り付け、ウェブサイトの英語解説に誘導した。 | 観客層の高齢化は全国的に進んでおり、青少年世代への鑑賞機会、体験機会の創出と提供は大きな課題となっている。この課題への取り組みの一部として、各種の若年層・青少年向け券種の設定や、熊本におけるこども招待などの工夫を凝らしているほか、兵庫のように、券種としての設定は無くても、通年の経営方針として他館の若年層向け券種と同水準の低価格帯を設定し、座席数を確保して若年層からのアプローチを促した。<br><br>今回のプロダクションの場合、一般合唱や児童合唱が参加することから、その家族等をはじめとする周辺のネットワークの広がりや、客層の広がりに寄与した面もあったと考えられる。また、特に例年は本格的なオペラ上演の機会のない館の場合には、共同制作による全国的な話題性の高まりや、プレイベントの実施、高い公演水準が、初心者を含む幅広い観客の誘致につながった。すでに上演経験の多い館の場合には、学生モニターを募集したり、障がい者割引制度を設定したりするなど、より積極的・専門的なアプローチの機会を設定することもあった。<br><br>今回の特色の一つには、演出の森山開次氏への関心の高さを反映して、青少年層の来場者比率が比較的高かったと言える。助成による補助によって比較的低廉なチケット価格を設定していたことも、幅広い客層の喚起につながったと考えられる。<br><br>各館の取り組みノウハウが独自に発展している分野であるため、共同制作を機会にノウハウや考え方の共有ができたことは貴重な成果となった。<br><br>英語による情報提供は、字幕のほか、特設ウェブサイトでの公演情報提供、海外メディア(Bachtrack)への情報掲載、プログラムの二か国語印刷、場内アナウンス(一部会場)など、ある程度の対応が無理なく実現できる状況になっている。 | ◇各参画館の努力で、子どもや青少年のチケット販売数(熊本公演での子ども無料招待含む動員数)が目標を大きく上回った点は評価に値する。<br><br>◇客席の高齢化が指摘される中、経済条件に恵まれた既存の愛好家に訴求するだけでなく、幅広い世代や障がいのある方の来場を歓迎していることが伝わるよう、券売や広報のさらなる工夫を求めたい。<br><br>◇下記「エピソードやグッドプラクティス事例」に詳述されている通り、カンパニーのオーブんな雰囲気促され、出演者や関係者がSNS等で自発的に情報発信したことが、比較的若い世代への強力なアプローチとなったと思われる。SNSも種類によって利用者の年齢層が異なるため、マーケティングや広報手法を開発していくことが今後の観客創造には重要だろう。<br><br>◇「オペラに対する関心度の向上」を図るため、東京芸術劇場で学生モニターを10名募集したが、フィードバックが有効に活用されるよう、モニターのあり方を精査すると良いのではないかと。<br><br>◇京浜工場地帯に立地するミューザ川崎が、川崎市国際交流センターと連携して外国人を対象にゲネプロ見学やホールツアーを実施し、50名もの参加者を得た点は、劇場にとっても地域住民にとっても貴重な出会いになったと思われる。<br><br>◇情報保障や鑑賞サポートは、近年整備が進みつつあるが、障害特性に応じて必要なサポートが変わることや、まだ対応例が少ないこともあり、共同制作を通じてノウハウが共有されたことは重要である。兵庫公演や川崎公演ではサービス助士士の有資格者がサポートにあたり、細やかな対応を行ったとの報告は、他劇場の参考になるだろう。<br><br>◇準備をしても活用されないケースも生じると思われるが、熊本県立劇場で障がい者等割引を設定し(S席12,000円〜C席6,000円を各3,000円引)、24名の利用者があったことは示唆的である。今後はサポート体制を整えるのと同時に、各劇場で障がいのある人々の来場を促す努力がなされることを求めたい。<br><br>◇外国人(英語話者)に対しては紙媒体とウェブ媒体の併用や、英語字幕の投影等、一定の対応がなされたと評価できる。今後は、在住外国人やインバウンド、海外企業の日本誘致なども見据え、特設サイトや事前広報を中国語など多言語に広げていくことも考えられるだろう。<br><br>◇下記「エピソードやグッドプラクティス事例」に詳述されている通り、名取公演で視覚に障害のある児童の出演が実現したことには、本人だけでなく協力した周囲の人々にとっても忘れ難い経験となったと思われる。 |           |

(2) 「多様性・アクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

児童合唱の一つに、視覚的なハンディを持つメンバーがいる団体があった。通常の活動では他のメンバーがサポートしながら演奏活動をしているとのことだったが、オペラの場合は舞台上で自発的な演唱が求められるだけでなく、万一つづいて転ぶなどした場合には、演奏・上演の継続に関わるだけでなく、本人と周囲の出演者の安全にも関わる事態となる。特に「ラ・ボエーム」の場合、児童合唱が出演するのは第2幕の雑踏シーンであり、舞台上にたくさんの出演者が行き交っていることが大前提となる上、今回の舞台デザインでは階段状の舞台装置があるため、健常者であっても舞台上の安全確保に十分な注意が必要な状況であった。しかし、当該メンバーはオペラ参加への意欲が強く、所属団体としてもその意思を尊重してサポートする意向を示していたため、演出家と相談の上、最終的には安全に配慮可能な状況を作って出演していただくこととなった。もとより、児童合唱からプロ合唱メンバー、一般合唱まで、世代・性別を超えて包摂的な社会を表現するのが「ラ・ボエーム」合唱シーンの本質の一つであり、関係者の理解と協力により、鑑賞者だけでなく、出演者においても身体的なハンディを持つ者を含めて共演できたことは、大きな成果となった。

定量的な記録・資料化は困難だが、観客層の拡大やアクセシビリティの向上、特に比較的若い世代の興味喚起に関して、SNSやブログ等によるいわゆる「ロコミ」の情報拡散が大きな効果をもたらしている。今回の公演では、プロダクション内容の水準の高さと同時に、指揮者・演出家の魅力的なパーソナリティ、カンパニー内部でのオープンな雰囲気、風通しの良さを反映して、出演者や関係者が自発的なPRを積極的に行ったことから、話題性がさらに高まった。東京公演から川崎公演まで1か月半の長期にわたる間に、終了した公演の感想や評判が相乗効果的に積み重なって、全公演完売に結実することにもなった。

計画段階では、さらに視覚障がい者向けに読み上げサービス等を利用した多言語での情報提供・情報発信に対応することも検討していた。これらの対応は、直接の作業や経費は決して大きなものとは言えないかもしれないが、関連作業にかかる要員の確保とそれに伴う人件費・作業時間を考慮すると、「バリアフリー・多言語対応への助成」以外の助成規模の大幅縮小に伴ってあらゆる経費を節減していく中で、結果的には手薄にならざるを得ない状況になった。多様性・アクセシビリティの向上に際しては、直接経費だけでなく、各地域でのニーズのリサーチ、ニーズの掘り起こし、顧客(団体、施設等)とのコミュニケーションルートの開拓、適切な広報・販促媒体・手段の作成・コーディネート、受け入れ態勢の整備など、助成対象にならない間接的な作業や経費が必要なため、地域や主催館の規模・体制によってそれぞれ課題が表出せざるを得ない。今回の共同制作によって、他館の取り組みや考え方について情報を共有し、経験値を高めることができたことは将来的な対応力アップにつながる。

以下、特に各館からのコメントを付記する。

【名取】U-30チケットを設定し安価に提供することで、来場割合の少ない層へのアプローチができた。(U-30チケットの枚数制限を設けていたが、早々に完売となった。)関連公演とし開催した「オペラレクチャーコンサート」の来場者数は有料座席数の23%にとどまる結果となったが、来場者アンケート結果「良かった」「まあまあ良かった」が全体の92%となる高評価を得ることができた。児童合唱の中に視覚障害(弱視)の児童が参加した。演出の森山氏をはじめ、各セクションや合唱団、先生方が連携した協力体制のもと、暗く視界のささぎられる舞台の上で事故なく出演を終えることができた。オペラやクラシック音楽の愛好家はもちろん、森山氏の演出による公演ということで、演劇やダンスのジャンルからの来場者も多く、アンケートでは初めてのオペラ公演でも楽しめたという、感想が多く寄せられた。

【京都】車椅子席・ヒアリンググループ席の設置や機材貸出対応を行った結果、車椅子来場者1名に来場いただいた。外国人来場者向けには英語での情報告知や、当日の掲示・アナウンスを行い、スムーズな案内を行うことができた。若年層向けの告知を強化したことから、若年層の観客動員につなげることができた。

【兵庫】骨伝導補聴器やタイループの貸出、車椅子利用者には車椅子席や本席移乗、多目的トイレの案内、視覚障害者のサポート、送迎のみの介助者との情報共有などを行い、障がいのある方も来場しやすい環境づくりに努めているが、スタッフ増員配置費用が大きな課題である。本公演においては、バリアフリー助成補助によりスタッフの増員が叶い、サービス助士士の資格をもつスタッフを中心に、きめ細やかに来場者のサポートにあたることができた。障害のある方の劇場利用における障壁を低減できたと考える。(車椅子席利用3組、歩行器具利用者5件、杖歩行者多数)

【熊本】熊本:U-25割やこども招待が57人、障がい者等割などを実施。合計149人が利用し、多様な層の来場を促進した。

【金沢】児童合唱の関係者を中心にPRすることで、当初の予定よりも多くの若い方(大学生以下)が鑑賞した。上記と連動するが、その結果初めてオペラを鑑賞したという方が23.6%とこれまでの公演よりも高い数値(通常は15%前後)となった。

【川崎】多国籍の人々を対象にした交流イベントについては、募集開始後すぐに定員の50名に達し、関心度の高さが伺えた。参加者からも満足度の高い感想が多く寄せられた。稽古場として使用した川崎市国際交流センターの利用者を中心とした人々を対象に、ミューザ川崎シンフォニーホールでのゲネプロ見学イベントおよびホールツアーを実施した。参加した50名の関心度は非常に高く、熱心に説明に聞き入っていた。普段リチすることの少ない層へミューザ川崎シンフォニーホールの活動をアピールするととても良い機会となった。

評価項目④:自由設定(任意)

①創造性・企画性、②地域性、③多様性・アクセシビリティ、の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

| 評価の観点 |
|-------|
|       |

- (1) 助成対象活動(公演)に対する評価指標と目標(値)
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

| 評価指標 | 目標(値) | 実績(値) | 団体の自己評価 | 所見 | 対応・追加情報など |
|------|-------|-------|---------|----|-----------|
|      |       |       |         |    |           |



## 4. 総評

### ・ 団体の自己評価

現在のわが国の舞台芸術界において、挑戦する取り組み一つ一つが高い評価を得ながら最前線を走り続ける井上道義（指揮）と森山開次（演出）、今の国内楽壇で最も注目される歌手陣と海外招聘歌手を含む国際的なキャストによるオペラ新制作フルプロダクションを、1か月半にわたり連続開催。各地を代表する7つのトップオーケストラと各地の特色を活かした大合唱団が持ち回りで共演し、各地のリソースを様々な形で動員。大きな注目と高い評価を獲得。全公演チケット完売（観客総動員数約11,500人）。共同制作助成事業として前例のない7都市での連続開催を実現。東北、北陸、関東、関西、九州で800席規模の中規模劇場から2000席規模の大規模コンサートホールまで、各地域で施設のポテンシャルを最大限活用しながらオリジナルのオペラプロダクションを提供。チケット価格を低廉に抑え、幅広い観客層の来場を促すと共に、合唱団、児童合唱団、オーケストラ等で地域を代表する団体や関係者が出演者として参画。子供から高齢者まで、体験を通じて芸術活動への関わりを深める機会を創出。指揮者・演出家の高度な要求に応える専門性の高いスタッフを布陣。7主催館がそれぞれプロフェッショナルとしての人材・ノウハウ・ネットワーク・機材等を相互提供することで経費の節減を図りながら高水準のプロダクションを実現。事業規模の大きさと公演水準の高さを支える財源として、あらゆる収入確保の努力を行い、券売収入、オフィシャルグッズ販売収入、自己財源のほか、通年で実施している寄付金、協賛金などで獲得した外部資金、ネーミングライツ導入で獲得した資金なども充当すると共に、共同制作助成を最大限活用。ただし、助成内定額が当初の想定を大幅に下回ったため、あらゆる経費の節減に努めたが、やむを得ず規模の縮小、本来目指していた目標からの妥協を余儀なくされた。出演者・幕数の多い演目の多都市間ツアーでは、多額の旅費・滞在費・運送費等が固定経費となるため、事業計画そのものの見直しが必要になりかねない。特に、働き方改革やワークライフバランスの健全化を求められている中で、人件費の制約は関係者の健康や安全に直接影響する。以上のことから、助成決定の際は、事業内容、申請内容に見合った審査・内定判断・フォローが求められる。

【名取】名取市文化会館での共同制作オペラの上演は2015年以来9年ぶりとなる開催であった。共同制作として他会館の多大な協力やノウハウを得ることで、地方の劇場でも今回の規模感のオペラを盛大に開催し鑑賞の機会を提供することができた。他会館の規模と比較し圧倒的に予算や人員が少ない中、やり遂げることができたことは大きな成果であり、名取市、ひいては東北の芸術文化振興の底上げに繋がる結果となった。「共同制作」ならではの連携および協力体制の中で地方の文化芸術の発展に寄与することができたことが今回の大きな成果であると強く実感している。また、オーケストラ、合唱団、児童合唱団は全て地元の団体を起用し、地域に根差した芸術活動が活性化されたことに加え、各芸術団体の実績および経験値として今後に活かされることは間違いない。「地元」を大きく巻き込んだ事業展開の事例であり、今回できた繋がりを活かしていくことで、独自性のある事業に繋げる可能性を認識することができた。また、今後も地域間連携を視野に入れて他会館との協力体制を保った事業展開を行っていく良いきっかけともなった。

【京都】  
・「森山さんだからこそ、多彩で柔軟なオペラ、井上さんだからこそその包み込む音楽だと感じました。」「井上マエストロ、歌手のみなさん、ダンサーのみなさん、オーケストラそろって素晴らしかった。」「規模の大きさ、キャストのレベルの高さ、舞台の創造性など大変おもしろく拝見させていただきました。京都のオーケストラ、井上さんの指揮もよかったです。」といったアンケートが寄せられたことから、創造性・企画性において来場者から高く評価されたと言え、また90％以上の来場者から「満足した」という回答を得られた。多くの人に満足度の高い公演を届けられた。  
・京都市少年合唱団の合唱稽古を兵庫公演の出演団体（三田少年少女合唱団）と合同で行ったことにより、お互いに影響与え、「関西地域」として充実した活動を行うことができ、より質の高い公演をつくることができた。  
・近隣の芸術大学、音楽専攻のある大学、音楽高校へ直接広報したことにより、ユースチケットは目標（50枚）の約2倍である97枚の販売枚数となった。  
・車いす席の設置、ヒアリンググループ席の設置・磁器の貸出しといったアクセシビリティ対応、多言語による情報提供など、幅広い人々が参加できるような配慮を心掛けることができた。

【金沢】  
・多くの地元関係者と国内外のトップレベルの出演者が同じ舞台・空間を共有することで地元の出演者にとっては、パフォーマンスの質の向上及び今後の活動のモチベーションアップにつながった  
・今回制作の一部を当ホールの指定管理者であるJVの構成法人が行うことで、地元制作のノウハウを身に付けることができた。

【川崎】  
川崎公演では国際交流イベントとして公開リハーサルを実施。来場者アンケートでは「最高の総合芸術を見届ける事が出来た」「円形劇場風で面白かった」「席に座るとラ・ボエームの世界」「音楽・演出・衣装・身体表現、全てが融合し素晴らしい舞台」といったご意見を含め総合満足度99％という反応を頂いた。そしてヴィンヤード式のコンサートホールという状況を逆手に取り、舞台や客席の構造を生かした公演が出来た事の収穫は大きい。この事は全ての関係者の創意工夫と献身的な仕事振りの結実であり、単館開催では決して成しえない実りある共同制作プロジェクトの恩恵を大いに受ける事が出来た。

### ・ 所見

◇総評及び各評価項目でも既述されている通り、本事業は指揮者・井上道義氏の引退公演を舞踊家・森山開次氏が演出・振付・美術・衣裳として支え、国内外の実力派の若手歌手勢による『ラ・ボエーム』の上演という、話題性溢れる企画であった。核となるクリエーションの水準の高さと独創性に加え、各地のオーケストラや合唱団、舞台・制作スタッフが参画し、出演者総数727名、スタッフ総数251名、計978名が関わる大規模プロジェクトとなった。複数のキャスト交代がありながら、いずれの会場においても高い水準の上演が実現したと言え、全国7会場8回公演のチケットが完売し、計約11,500人を動員して成功裡に終わったことは称賛されるべき成果と言える。

◇そこには、指揮者や演出家の要望に応える熟練した技術者の存在や、オペラ制作の経験豊富なプロデューサー陣の献身的な働き、また幹事館の兵庫県立芸術文化センター、東京芸術劇場を筆頭に参画館それぞれが目的意識を持ち、互いにノウハウや資源を共有しながら地域の状況に応じたきめ細やかな制作を行ったことが見て取れる。

◇「全国共同制作オペラ」はこれまで、野田秀樹演出の『フィガロの結婚～庭師は見た！～』（2015年度/10都市13公演、2020年度/3都市3公演）、森山開次演出『ドン・ジョヴァンニ』（2018年度/3都市4公演）、矢内原美邦演出『ラ・トラヴィアータ』（2019年度/3都市3公演）、岡田利規演出『夕鶴』（2021年度/3都市3公演）、上田久美子演出『田舎騎士道』『道化師』（2022年度/2都市4公演）、野村萬斎演出『こうもり』（2023年度/3都市3公演）などを制作上演してきた。今回の演出は、時代設定を変えず、オーソドックスな中に少々のエスプリを効かせるという方向性であったが、井上道義と森山開次の求心力によって多くの観客に喜ばれる作品となったことは、これまで積み重ねてきた共同制作の実績の賜物であろう。

◇今後は、演出面での更なるチャレンジを含め、特に大都市の劇場においては従来のオペラ愛好家に留まらない、若年層を含む幅広い観客を呼び込むための創意工夫を期待したい。音楽と演劇の愛好家が交じり合うような客席をイメージすることも一案であろう。

◇なお経費に関しては、やむを得ず助成金額が減額となってしまう場合には、主催者でカバーする努力を求めざるを得ない状況にある。例えば、ロームシアター京都や熊本県立劇場が地元企業から協賛金を得ているように、すべての劇場が入場料収入以外のプロジェクト単位での寄付金の獲得や、広告収入等のファンドレイズを行う必要がある。一方で、そのためのマンパワーをいかに確保するかも課題となるだろう。

◇昨今の働き方改革やワークライフバランスの推進を受け、労働時間が縮減する中で、劇場には多様な役割が求められ、タスクが増えている。人間性の根幹に関わる芸術創造活動を継続するためにも、関係者が知恵を出し合い、業務の優先順位の見極めなど、解決策を見出すことが求められている。